

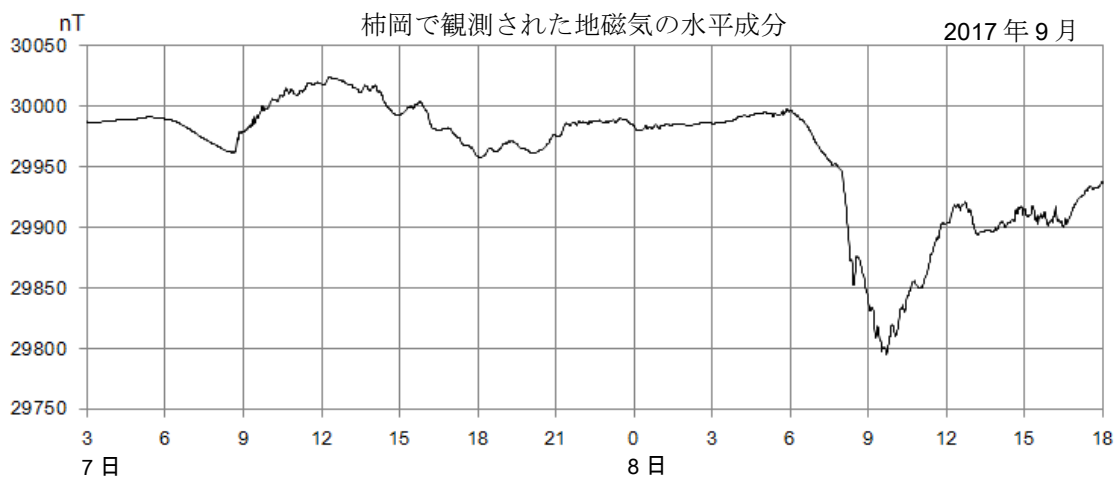
地磁気の乱れに関する情報

気象庁地磁気観測所（茨城県石岡市柿岡）では、現在地磁気の乱れを観測しています。地磁気の乱れの特徴がよくあらわれる地磁気の水平成分の変化は、本日 8 日 06 時前に始まり、08 時 00 分から大きくなり、その後現在まで活発な状況が続いています。変動幅は 206nT（ナノテスラ）に達しています（18 時現在、下図参照。1924 年以降では 1941 年 7 月 4 日に 700nT 以上を記録したのが最大）。

今回のように大きな地磁気の乱れが起きると、通信障害等が発生する場合があります。

この地磁気の乱れは、9 月 4 日頃から頻発している太陽表面での爆発に対応するとみられ、（国立研究開発法人）情報通信研究機構によると 9 月 6 日 20 時 53 分に大規模な（X9.3）のフレアが発生したとの発表があり、今後も注意深く観測してまいります。

最新の地磁気の状態は、気象庁地磁気観測所のホームページでご覧下さい。
(<http://www.kakioka-jma.go.jp/index.html>)。



参考：

- 地磁気の乱れの多くは、太陽面での大規模な爆発により放出された高エネルギー粒子が地球に到達した際にその影響を受けて発生します。
- 地磁気の単位は nT を用います。日本付近の平均的な地磁気の水平成分の大きさは約 3 万 nT で、平穏時の日変化は 50nT 程度です。
- 地磁気の乱れに関する観測情報は、地磁気観測所から（国立研究開発法人）情報通信研究機構に通報され、全世界を対象とした電波予報・警報のほか、太陽地球環境予報（宇宙天気予報）にも役立てられています。

本件に関する連絡先：地磁気観測所技術課

（電話） 0299-43-1876